

◎日本財託Gから漏水サポート新会社創業
— Bohnes、3年後の提携先50が目標

日本財託グループから、漏水調査と内装工事に携わる新会社Bohnes（ボーンネス）がこのほど創業した。マンション管理会社などグループ外部からの受注に対応し、業容は3年で提携先数50件、年間出動件数約300件に拡大する予定だ。

代表取締役は大村龍二・日本財託管理サービス運営管理本部管理部事故サポート課課長代理。マンション管理会社らが管理する物件の漏水事故の被害から復旧や内装の修繕、保険対応までワンストップで担う。賃貸マンション住戸1戸から1棟収益物件までカバーできる。エリアは日本財託グループと同様に東京を中心とした首都圏。

グループで培ってきたスキームや経験を生かして外部に向けたサービスを展開する社内ベンチャーとしてスタートし、昨年11月に設立された。足元では13社と提携済み。同業は漏水からの復旧工事を専門とする施工事業者やそこから発展した企業が多い中、不動産事業者を母体とするボーンネスは対応範囲の広さなどが強みとなる。保険対応まで含めた1案件ごとの事業期間には、相場が半年ほどのところ約3カ月と短い。保険に関する相談や家賃減額請求への対応など施工以外の専門性の高い部分まで支援する。価格面の透明性も高い。加えて自前のアプリを実装済みで、管理会社とのリアルタイムでの情報共有と迅速対応が可能だ。

事業の成長と両輪で人員も増強する。5年後には年間500件ほどの案件をこなしていける体制にする方向。大村氏は「漏水サポートから、賃貸管理市場全体のサービスの向上に貢献していきたい」と話す。